

“人むすびの場”をともに創りませんか？

- ★「むすび（産霊）」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。
- ★「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあい、未来に向かう「対話と創発の場」です。2008年から毎月開催しています。
- ★私たち一人ひとりが一枚の布を織りあげるように、どこを織っているかは後でのお楽しみで、世の中と関わることで、未来社会を明るいものにできるよう希（ねが）います。
- ★2018年も心ある取組みの“今”をお伝えし、対話を通じて前進しましょう。
皆さまのご参加を心からお待ちしています。

1. 第116回テーマ：「教育を『ティール組織』で取り組む～星槎グループの取り組みから」
2. 日 程：平成30年3月22日（木）午後7時～9時
3. 内 容：☆ゲストスピーチ 前田 勝（まえだ・まさる）さん

＜学校法人国際学園星槎国際高等学校 情報企画部長＞

つい数年前までなら、「星槎」って何て読むの？と質問する人も多く、「知る人ぞ知る」的な存在だったようですが、今や教育関係者の中では「星槎グループの取り組みが教育のあり方を変える」とまで言われ、注目を集めています。例えば、先月11日の毎日新聞「ストーリー」 <https://mainichi.jp/articles/20180211/ddm/010/040/165000c> の大きな記事「いかだで星を目指す」のように、メディアでも話題は広がっています。

星槎グループ <http://www.seisagroup.jp/about/group> の教育活動は、「ツルセミ」と呼ばれる横浜の学習塾からスタートし、今は幼稚園から大学院まで全国約100カ所に施設を持ち、約3万人が学ぶ、大きな組織になっています。マスコミなどでは、創業者である宮澤保夫会長の教育理念とリーダーシップから発展した教育組織のように評価されがちですが、実は、「人むすびの場」的な視点でとらえると、前回の「場」のテーマにした「ティール組織」のように見えます。心ある教育者たちが集まり、仕事にやりがいを感じて子どもたちに向き合ってきたことから、これだけ大きな教育組織に「育てる」ことができたのではないのでしょうか。ツルセミ時代から塾講師として関わり、通信制の星槎国際高校の運営を拡大するなどしてきた同校 情報企画部長の前田勝さんに「星槎国際高校とは」 <http://seisa.ed.jp/> を語っていただき、これからの教育とそれを支える学校組織のあり方を、一緒に語り会いたいと思います。

☆人むすびカフェ ファシリテーター：角田 知行さん

ワールド・カフェの手法を用いて、ゲストのお話から連想されるアイデアやお互いの想いを対話します。

4. 会 場：EIJ PRESS Lab（渋谷区恵比寿南1-9-12 ピトレスクビル5F）

5. 参加費：1000円 ※終了後、軽く交流会を開催します。（実費2,000円）お申し込みは21日（水）まで。

お申込はHPまたはメールからどうぞ！

お名前、所属、電話、mailアドレス、懇親会参加をご明記ください。 <http://www.terrestrial.co.jp/musubi/>

※記録写真の撮影とその活用をご了承ください。

株式会社テラ・コーポレーション内

“人むすびの場”づくり企画運営チーム：高重

東京都文京区白山1丁目20番4号

ハウス白山ビル4階（〒113-0001）

TEL:03(3815)1981

Email: info@terrestrial.co.jp

※お預かりした個人情報は本ご案内の他に利用しません

